

## 第66回 chatGPTほか無料版AIで工賃向上へ？

昨年秋にchatGPTがリリースされて以降、ロボットが掃除したりペットになってくれるとかいった今までのAIブームとは質の違う勢いで、人々や企業がAI化の波にのみ込まれようとしています。良くも悪くも人類史上の大きな転換点になるでしょう。

そういう筆者も春先にchatGPTを少し使ってみたところ、ひどいウソ回答が多いので使いものにならないと（その時は）感じたものの、不自然な機械翻訳と全然違う、本当に人間が書いているような正確で読みやすい日本語に薄気味悪さも感じてました。

その後、様子見だった多くの企業なども活用の動きを見せてきたことから、あらためて研究してみると、使い方によっては大変有用であること、今後の進化を考えれば仕事に不可欠な道具になることを認識しました。

まず、chatGPTも、そのライバルであるgoogleBARDも、始め方、使い方は実に簡単です（この2つは無料版の商用利用もOKです。）。少しインターネットで検索すれば、10分もかけずに開始することができるでしょう。

問題は活用方法です。ちなみに現在のところ、「個人情報、営業秘密などは入力しない（入力データがAI側のサーバーに送られてしまうから）」「回答は鵜呑みにせず、必ずチェックする（誤りや、偏見を含んだ回答もありうるから）」「著作権などに注意（元データが他者の著作物である可能性もあるから）」といった留意点があります。

活用例としまして、「障がい者就労支援の事業所で、価格はやや高めですが素材にこだわった健康志向のパンを製造・販売しています。中堅チェーンストアのバイヤーに営業する際のトークを考えてください。」と入力すれば、わずか数秒で、いくつかの案が箇条書きで、しかも驚くべき妥当性をもって返ってくるでしょう(・o・;)。

しかしこれで終らせてはいけません。相手は“対話型”AIですので、返ってきた答えに対して、何回も追加で質問することができます。「もっと考えて」「もっと具体的に」「わかりやすく」などと入力すれば、さらに回答が返ってきます。その中から人間が取捨選択し、表現を修正していけば、一人で考えているよりずっと効率的に営業トークをまとめることができるでしょう。

これはあくまで一例です。仕事への活用方法などに関しては既に多くの書籍やビジネス誌の特集記事も出ています。

もちろん、皆様の法人・事業所でもAI使用への抵抗があるかもしれません。観念的に論じてるだけでは、AIへの不安や嫌悪感は払拭できないでしょう。

まずはログインして、初めはお遊びのつもりで気軽に使ってみせることで、抵抗は少なくなっていくと思います♪。まず始めることができるかどうか、分かれ道です。

（2023年8月14日現在の状況により執筆しています。AIツールをめぐる情勢は刻々と変化していますのでご留意ください。

なお、この記事は、今のところは、人間が執筆しています。）